

2020年9月30日（水）

老球の細道565号

9月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

会津からのコロナ感染者が増加し、毎日がコロナで始まりコロナで終わる陰的な日々が続いていたが、明るくなることもあった。孫息子の登園拒否が解決したことである。きっかけは米国映画『キングコング』を見せたことかもしれない。コングのように強くて、女の子に優しくなるんだと言って、なぜかぐずらないで幼稚園バスに乗るようになった。子どもは、いつ、どこで変身するかわからない。我慢強く、待つことを忘れてはならないことを確認。

1・テレビから

◆「私たちが恐れなければならないのは、恐怖心そのものです。恐怖心は、退去を前進に変えるために必要な努力を麻痺させてしまいます。私たちの祖先が恐れず信念を持って克服してきた危機と比べれば今はずっと恵まれています。我々は国民の結束で生まれる温かい勇気をもって目の前の困難な日々に向かうのです」〈NHK・BS：映像の世紀：米国フランクリン・ルーズベルト〉：アメリカが大恐慌に陥った時に、大統領が自ら国民に語りかけたスピーチ。私たちがコロナへの恐怖心よりも「コロナを恐れる恐怖心」に向かう。

2・読書から

◆「今までの哲学者たちは、この世界をあれこれと解釈してきたにすぎない。重要なことは、世界を変革することである」〈都留重人『人類の知的遺産・マルクス』講談社〉：世界に最も影響を与えた哲学者の墓石に刻み込まれた碑文である。あれこれ口先だけで言っている前に行動せよ、そして自分を変え、社会を変え、世界を変えよと言う。コーチも同じ。

◆「早く生きて待つことあらば潔し。遅れて急ぐ道は危うし」〈宮野澄『最後の海軍大将・井上成美』〉：太平洋戦争真只中の戦時下においてもリベラルな生き方を貫いた大将は決して時間に遅れなかったという。トステイン・ロイブルも一度も遅刻をしない。時間に遅れることは身の危険を冒すばかりでなく人間としての信用を失う危険も冒す。

3・新聞から

◆「遠くのできごとに 人はうつくしく怒る」〈朝日：日曜に想う：詩人石川逸子〉：決勝までの試合数に合わせて7枚の黒いマスクをかけ、人種差別への抗議をしながらテニス全米オープンを優勝した大阪なおみはすごかった。遠い出来事をどれだけ我がことのように考えられるか。アスリートである前に人間であれ。チャップリンの映画『独裁者』での演説「わたしたちは、他人の不幸によってではなく、他人の幸福によって、生きたいです」。

◆「お話はおとなが子どもにおくることのできる、いちばんいのちの長い贈りものだと思います」〈朝日：折々のことば：東京子ども図書館〉：大人が自分のために時間をくれる。そこから人への信頼が育つと作者は言う。先輩から聞いた話だが、畑の作物への最高の肥料は生産者の足跡だという。作物のためにどれだけ畑に通ったかで出来ばえが決まる。選手の成長も同じ。コーチがどれだけ多くの時間コートに立ち続け、選手のために時間を費やしたか。